【短信・OBOG】

星の王子様

小野（旧姓・荒井）　優

生徒から見れば「先生」。しかし、「先生（わたし）」は生徒と同じ一人の人間です。生徒と私の大きな違いは「大人」であること。

私が生徒から「くみ取れたこと」は、本当に生徒が求めていること、考えていることなのだろうか。私が生徒であったとき、「先生」は私の想いをくみ取っていたのだろうか。「先生」となった今だからこそ感じる。

もしかしたら、生徒たちに「先生（わたし）」の考えていること、想っていることを、その若い感受性によって見透かされているのかもしれない。

きっと、これからも多様な生徒と巡り会うことでしょう。巡り会った生徒に対し、目に見えることだけを追い求め、自分の想いのみで関わり合うのは少し違うのではないのでしょうか。それは、本当に大切なことは目に見えないところに潜んでいることが多いから。

見えないところで感じている『大切』の物差しは私と他の人とが違っていて当たり前だと思います。だからこそ、「生徒」に何かを残そう、あるいは心に響かせようと考えることは、傲慢すぎるのかもしれません。

一方的に「何かをしてあげよう」ではなく、一見すると無駄とも思える時間を生徒と共有し向き合う。先生（わたし）の想っている答えや行動は期待しなくていい。どのように考え、どのように行動していくのか、生徒を信じて、しっかりと見守る。その環境をつくることが「先生＝大人」の役目ではないかと考えます。

「先生＝大人」だから、【理解されない】【考えを押し付けてくる】と感じられてしまったら最後。だからこそ、「先生（わたし）」は飾らず、等身大の自分で生徒と同じ人間として向き合おうと心がけています。

互いに考え、互いを育んできた時間は、もしかしたら将来「美しかった時間」であったと感じる時が来るかもしれません。「先生（わたし）＝大人」のやり方で、今感じているこの想いを忘れずに、かけがえのない星の王子様たちを未来へと繋げていければと思います。

（おの　ゆう　中野市立豊田中学校）